

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 優秀賞

「 災害から学ぶ 」

鹿児島県 錦江町立田代小学校 5年 ^{みやはら}宮原 ^{まりあ}聖愛

「この場所で、2名の先生方がくずれてきた土砂にうまりなくなりました。」

そこは、私たちの学校のうら山。80年前の肝属水害で起こった悲げき。

今回私たちは、総合的な学習の時間で「防災について考えよう」という学習をすることになった。肝属水害については、以前から聞いていたが、「そんな悲しいことがあったのか。」と少し他人事のように思っていた。しかし、今回学習をすることになって、このような悲しいことが2度と起こらないように何か私たちにできることはないかと考えた。

まずは、肝属水害について調べてみることにした。

昭和13年10月14日、台風のせっきんで大すみ半島の南部は、24時間雨量が400ミリをこえた。この大雨で肝属川水系の堤防が10ヵ所決かい。記録的な洪水となり各地で土砂災害が起こった。死者・行方不明者435人。県内で記録に残る最悪のごう雨になったようだ。そして、私たちの学校でも悲げきが。そして、近くには「急傾斜地崩壊危険箇所」という看板が。

私の家の周辺はどのような様子だろう。私たちの学校では、防災マップを夏休み作ることにした。ふだん何気なく通っている道もこうしてじっくり見て回ることのでたくさんのきけんな箇所があることに気づいた。ここにも「急傾斜地崩壊危険箇所」という看板。ガードレールのない水路が私の歩くすぐ近くに。

「ここはふだんから水位が高いよね。」

母が、のぞきこみながら言った。「大雨がふった時は、どうなるのだろう。」と考ただけで足がすくんだ。

私の防災マップは、危険箇所が記入され完成へと近づいてきた。「これくらいだいじょうぶ。」と、思ってすごしていた私。あらためてこのマップを見直し決意した。安易なはんだんが命取りになることを。

この防災マップを生かしたい。夏休みが終わると、それぞれの作ったマップの発表会がある。クラスでは、マップを使って意見交かんをする。でも、もっと多くの人に知らせたい。

「先生、このマップ地域の方々に使ってもらえませんか。」

「役場の方に相談してみましよう。どのように生かせるか。」

私の防災マップが人の役に立つことができる。暑い中、危険箇所探しをしたことが思い出された。

「来年は、もっとはんいを広げて作ってみよう。」

80年前このような悲げきが起こったことを私たちは、わすれてはいけないと思う。

「みんなが、防災意識を高めながら毎日を安全に楽しくすごすことができますように。」と願いをこめて。